オレリエン・ハンクーの スイスへの誘い

『結婚、おめでとう!』

最近、初めて日本での結婚式に出席しました。

結婚したのは6年前にスイスで知り合ったとても大切な奈良の友達、映画監督の河瀨直美さんです。披露宴にはもちろん出席しましたが、神前式にも参加したので、皆さんとお裾分けしながら、日本と西洋の結婚式について考えてみたいと思います。

まず、東大寺境内にある手向(たむけ)山八幡宮で執り行った神前式を紹介しておきたいです。式が始まると神主はお祓いし、お供え物を神様におすすめした後に、二人の結婚を神様に報告しました。その後、二人は神前で誓いの言葉を申し上げ、「三々九度」の盃を交わし、指輪を取り交わしました。新郎新婦、媒酌人の二人とお互いの家族が玉串を供え、二人の幸せを祈って親族だけではなくて、一同も神酒を飲みました。最後に神主がお祝いの言葉を申し上げて神前式が終わりました。思ったより式が短かったが、風が祈りの合間に吹いたり止んだりしたことで、神々が二人の結婚のために降臨したかのようでとても神秘的で厳粛な雰囲気を漂う神前式となりました。

三々九度の杯を交わす場面

次は、奈良ホテルでの披露宴を紹介します。ホテルに着き、受付を済ませ、招待客が揃ったところで集合写真を撮りました。新郎新婦が着替える間に宴会場の方へ案内され、披露宴が始まるまでテーブルの人と話して待ちました。ちょっとしたら会場が暗くなって華やかなえんび服とウエディングドレスに着替えた新郎新婦が入場して、披露宴が始まりました。司会者の挨拶の後に乾杯しました。乾杯のためにシャンペンに似た炭酸が入っているかのような珍しい日本酒「春鹿大吟醸、にごり酒」が用意され、とても美味しかったです。食事のテーマは「寧楽づくし」(寧楽とは奈良のこと)で、前菜の「モロヘイヤと海の幸のゼリー寄せキャビア添え」を始めとして、「コンソメスープ海藻巣すっぽん風味」、「真鯛と平目のサラダ仕立てジンジャー風味」、「三輪そうめんのペペロンチーノ」、「古代米の朴葉包みとつきたて餅」、「吉野川天然鮎入りの茶碗蒸し」、「特製和牛サーロインのロティ」、「沙羅の草」と名付けられた和菓子に至って、美味しい料理ばかりでした。そして日本の披露宴と言えば、新郎新婦の上司や親友のスピーチはもちろんありましたが、餅をついたり、書道家が大きな筆で板に字を書いたり、奄美大島の人が三(さん)線(しん)を弾きながら結婚を祝うために作った歌を歌ったりしました。時間があっという間に過ぎて、お開きの際、二人が両親に花を贈って、新郎も新婦も(後に聞いたのですが、挨拶するのは新郎だけが普通です)皆に挨拶しました。私は河瀨さんの言葉にとても感動して思わず泣いてしまいました。こうして披露宴が終わりました。

会場を出るときに和菓子と特製の茶碗の引出物をいただいて、次の日は仕事だったのでそのまま帰り、残念ながら二次会に参加できませんでした。

結婚、おめでとう

とても楽しい時間を過ごせて、感動的でいい経験となりましたが、神前式のときに神主が読んだ祈り、「三々九度」、「玉串」などの意味がよく分かりませんでしたから、日本の結婚式についていろいろ調べました。そうしたら、日本の伝統的な方式だと思っていた神前結婚式について大変なことが分かりました。初めて挙げられたのは当時の皇太子殿下(後の大正天皇)と九条節子姫様がご成婚した明治33年(1900年)のことで、105年間の歴史しか持っていない儀式だということが分かりました。明治時代と言えば、西洋の文化と価値観を積極的に取り入れようとした時代ですね。その中で、結婚の形も改新の対象となりました。西洋で結婚することには「宗教的な意味」が秘められていますから、教会で挙式するのは当然です。キリスト教の宗派(カトリック、プロテスタント、東方正教など)によって、結婚の持つ意味や解釈が若干違いますが、人間社会と神様の前で誓約する重要性、一生の喜びと悲しみを共にすること、お互いを支えること、愛しあって家庭を築くことなどの共通点が見られます。そして、どんな宗派においてもとても重大な宗教的な儀式です。

欧州の日常生活に完全に溶け込んでいたキリスト教に対して、明治時代までは宗教は全般的に日常生活と関係のないものでした。ところが、ヨーロッパの列強の背景にキリスト教があるように、日本で国家神道が作られました。そしてイギリスの王家が継承者の結婚式を教会で挙げるように、天皇家が神前式という形で挙式するようになりました。新しくできた日本特有の結婚式がまず明治政府と貴族の間に広まり、伝統的な結婚式として定着しますが、庶民はまだまだ挙げられませんでした。時代が高度成長期となり、1959年の皇太子殿下(現在の天皇陛下)の結婚がテレビで生放送されたことがきっかけで、庶民も華やかな神前結婚式を挙げるようになり、日本のブライダル業界が著しく発展します。現在、二人の特別な思い出にしたいといった理由で、海外で挙式したり、個性的な式場で挙げたり、また教会で西洋風の式を挙げるカップルがいます。

キリスト教でもないのに、キリスト教結婚式を挙げる日本人に対して、違和感を覚える外国人がいるかもしれません。しかし、友達の結婚式に出席して、愛する家族と大切に思う友達に囲まれ、皆が祝福してくれれば、結局大切なのは二人の気持ちではないかと思いました。

新婦の入場